

親子連れを中心に 1,000 人がパラスポーツの迫力を間近で体感！

# BEYOND STADIUM 2023

in むさプラ

東京都は、9月3日に武蔵野の森総合スポーツプラザ（調布市）にて、「BEYOND STADIUM 2023 in むさプラ」を開催しました。

本イベントでは、車いすバスケットボール、ボッチャなどの体験ブースが設けられたほか、パラリンピアンをはじめ日本で活躍するアスリートによるパラバレーボール（座位）、ブラインドサッカー®のエキシビジョンマッチやトークイベントが行われました。

約 1,000 人がパラスポーツの魅力に触れた、イベントの様子をお伝えします。

## 【第1部】

イベントの幕開けを飾るオープニングでは、じんじん先生(北村仁) & UD DANCERS JAPAN、RIVETS POP CHEER ACADEMIA、Studio Faith によるダンスパフォーマンスが行われました。各チームに所属する幅広いダンサーたちが、切れのあるダンスを披露し、会場が一体となり盛り上がりました。



その後、パラバレーボール(座位)のデモンストラーションを実施。武井壮さん、大林素子さん、渡邊美穂さんを迎え、平井理央さんがMCを務めました。



エキシビションを行ったのは2024年に開催されるパリパラリンピック出場を狙う日本女子代表チーム（愛称：煌めきジャパン）。リズムに合わせた準備運動や簡単なミニゲームを行ったあと、ゲストの3人も競技に挑戦してくれました。バレーボール日本代表としてオリンピックにも出場経験があり、イベントなどでパラバレーボール（座位）の経験もある大林さんでしたが「頭でわかっているけど体が動かない」と、本来の実力が発揮できない場面もありました。



日本女子代表チームが2つに分かれて行われたエキシビションでは、一進一退の攻防が繰り返され、会場に集まった人たちからは、得点が入ったりいいプレーがでたりすると大きな拍手と声援が送られていました。

エキシビションマッチ終了後、日本代表でキャプテンを務める西家道代選手は「パリパラリンピックに向けて、一丸となってどこまでもきら

めけるように、煌めきジャパンを応援してください」とコメントしてくれました。

また、ゲストの渡邊さんは「パラバレーを間近で見て、熱く盛り上がる、絆を深められるスポーツだと感じました、全力で応援します」とコメントし、武井さんは「みんなが個性を発揮しているプレーを見せてくれたので、パリパラリンピックの切符をつかんで絆を爆発させてもらいたい」と熱いエールを送りました。



## 【第2部】

オープニングは、調布市を中心に活動するチアダンスチーム「RIVETS POP CHEER ACADEMIA」のダンスパフォーマンスで幕開け。その後、あばれる君、鈴木あきえさんを

迎え、「未来への挑戦にエールを」と題したブラインドサッカー®と車いすバスケットボールについてのトークイベントが行われました。



ブラインドサッカー®のコーナーでは、元日本代表で、現在は埼玉 T.Wings でキャプテンを務める加藤健人選手が登場。あばれる君が加藤選手と一緒にブラインドサッカー®に挑戦したり、スフィード世田谷 BFC 所属のジュニア選手、安倍成一郎選手と南雲志真選手も登場し、日頃の練習の成果を見せてくれました。

トークショーでは、安倍選手は「僕が得意なプレーはドリブルとシュート。ゴールが決まったときはとても気持ちがいい」とコメントしました。また、南雲選手は小学生から 50 代までいるブラインドサッカー®のチームに参加して「世代が違うので考え方が異なるのもいいと思うし、何より友達がたくさん増えたことがよかった」とコメントしました。



車いすバスケットボールのコーナーには東京都車いすバスケットボール大会で 16 連覇中という強さを誇る NO EXCUSE のキャプテン・香西宏昭選手が登場。同チームアカデミー所属の尾作誠英さん、廣野正和さんとともに車いすバスケットボールのテクニックを披露しました。



トークイベントで尾作さんは「将来の夢の 1 つは車いすバスケット日本代表。憧れている選手が神奈川 VANGUARDS の鳥海連志選手。僕が車いすバスケットに出会ったときに初めて見

たのが鳥海選手で、プレーの凄さに引かれたので。もう1つは、宇宙飛行士」と、夢を語ってくれました。香西選手のプレーを見た廣野さんは「とにかくスピードが速い。（目標は）選手になって、コートに出ているいろんな選手と戦って勝ちたい」とコメントしました。

その後、free bird mejirodai とスフィード世田谷 BFC によるブラインドサッカー®のエキシビジョンマッチを実施。選手が音を頼りにプレーするため、試合中は静寂に包まれましたが、選手の激しいコンタクトやまるで周囲が見えているかのようなプレーの連続に、会場の熱い視線が注がれました。エキシビジョンでは元サッカー日本代表で現在は J リーグの FC 東京クラブコミュニケーターの石川直宏さんが解説を務めました。



試合は、前半 free bird mejirodai が終始主導権を握るも、スフィード世田谷 BFC が固い守りで得点を与えませんでした。しかし後半に入ると、日本代表でも活躍している藁部優月選手がハットトリックを決めるなど、圧倒的な攻撃力を見せた free bird mejirodai が 4 対 0 で勝利を収めました。



解説を務めた石川さんは「それぞれの個性を生かしながら、互いを認め合っていてリスペクトし合っていて、そしてみんなが心を豊かに、笑顔になれる社会をつくっていきたいです」とコメント。これは東京都が目指す「全ての人が輝くインクルーシブな街・東京」につながるものでもあり、石



川さんの言葉は多くの人に響くものとなりました。

来場者アンケートでは、「初めてエキシビションを間近で観て、健常者のスポーツとスポーツ性に変わりがないことを実感した」、「ルールの違いが多少あったりしたので、また新しいスポーツとしてみれた」といった回答があり、多くの方に「今回のイベントに参加してパラスポーツに興味を持った」とお答えいただきました。

## 【パラスポーツ競技体験】



サブアリーナではパラバレーボール（座位）とブラインドサッカー®の体験会も行われました。81人（パラバレーボール（座位）34人、ブラインドサッカー®47人）が、パラアスリートの指導のもとで競技を体験。パラバレーボール（座位）の体験では、第1部でゲスト出演した渡邊さんがMCを務め、武井さん、大林さんは参加者と一緒にプレーを楽しみました。



体験会の最後、一般の参加者とプレーした武井さんは、「パラバレーボール（座位）は、見ているよりもプレーするほうが10倍楽しい。ここにいる方はそれを体験できたと思うので本当に良かったと思います。とても充実した時間でした」とコメント。大林さんは「今日初めて会った方たちと、一緒に楽しんでプレーできることがスポーツの素晴らしさだと思います。パラバレーのチームはたくさんあるので、これからもプレーを楽しんでもらえればうれしいです」とコメントしました。

ブラインドサッカー®体験では、エキシビションマッチを行った free bird mejirodai とスフィード世田谷 BFC から代表選手が参加。体験者はアイマスクをつけ、パラアスリートと同じく鈴の音と仲間の声を頼りにボールの場所を探りました。「音だけを頼りに、スピードが出せるのは本当にすごい」と、体験者ならではの実感の込もった声が上がりました。



どちらの体験会でも障害の有無や性別年齢を問わず、皆で一緒にスポーツを楽しむ様子がとても印象的でした。来場者からは、「実際にやってみて大変さ、面白さ



がよくわかった」、「障害の有無に関係なく楽しめるスポーツがあるのもいい」といった声が聞かれました。

## 【展示・体験ブース】

会場内には、義足カバーや弱視向けの製品など、パラスポーツに関連する展示ブースも設置。パラスポーツすごろく体験、紙製のVR専用ゴーグル作成のワークショップ、ボッチャ体験、義足体験や車いすバスケットボール体験ができるブースなど、パラスポーツを見るだけでなく実際に体感できるコーナーも多数出展されました。また、会場入口前には、2025年世界陸上・デフリンピック関連の展示やキッチンカーなども配置され、イベントを盛り上げました。

